

祭神 天兒屋根命

比賣神

今按大神宮雜例集に天本十二年庚辰四月五日春日御社奉遷三善久山御社是右大臣中臣清麻呂卿致仕備三善縣津國島下郡三善久郷之間住家近所奉崇也とある神社なれば中臣氏祖神二座を祭れる事著きを清水村の社傳に武發槌命經津主命をも祭るとあるは大和の春日神社の盛なりし後に合せ祭れるものなるべしさて比賣神を比賣大神とあるは誤りなれば今は訂して二座を記せり

祭日 九月九日

社格

所在 (明細帳宿久庄村須久神社、村社 清水村春日神社、社村春日とは云へ共須久久神社の一座なりと唱ふ)

今按清水村は宿久庄村の内なりしを明曆中に分て清水村と稱せし也とそ注進狀に宿久庄村、内島羽字須久山に同名の神社あり式内二座の一なり後に二座の内一座を當村に遷したるならんか唯祭神素戔鳴尊稻田媛命と云る疑はしとみえたり之に由て考ふるに清水村は春日山と云ひ島羽なるは須久山と云るこの須久山の名は新例集の文によしあれど祭神いと疑はし後世社傳を失ひしにやあらん姑附て考を俟つ

阿爲神社

祭神 天兒屋根命

今按姓氏錄攝津神別中臣藍連天兒屋根命十二世孫大江臣之後也とあるが如く中臣藍連の祖を祭れる事明けし

祭日 四月八日九月廿日

社格 村社

所在 安威村字富山(三島郡安威村大字安威)

非於神社

祭神 素戔鳴尊

祭日 六月十四日九月九日

社格 郷社

所在 西倉垣内村(三島郡三宅村大字藏垣の内)

走落神社

祭神

祭日

社格 村社(明細帳能勢郡切畑村元中野東村走落神社あり之を指したる如し村社)

所在 中野東村今屬能勢郡

佐和良義神社

祭神 迦具土神

祭日 十一月三日

社格 村社

所在 澤良宜村(三島郡玉櫛村大字澤良宜)

幣久良神社

祭神 食稻魂命

祭日 九月九日

社格 村社

所在 耳原村字野舌(三島郡三島村大字耳原)

今按もと幣久良森にありしを元祿十一年氏神の小松原の中瑞瑠光院の西に移すと云則今の地なり

牟禮神社

祭神

今按社説祭神須佐之男命天兒屋根命とあれど古事記に垂仁天皇の皇子の事を大中津日子命者牟禮之別等祖也とあるに由あるべし

祭日 九月十三日

社格 村社

所在 (明細帳に戸伏村にあり)(中村三島郡三島村大字戸伏)

二島鳴神社

祭神 大山積命

今按本社傳説に祭神大山祇神相殿事代主神とありて事代主神通三島溝昨姫とあるのははれにより島下郡溝昨郷の氏神馬場村溝昨姫神社の南方一町許に當社の旅所ありて例年九月二十日遷御ありしが中古興丁の争論ありし以

米中絶すと云りさて思ふに神代卷に事代主神化爲八尋熊鷹通三島溝昨姫とある此三島溝昨姫の父三島溝昨耳神は大山積命の子などにて御由緒ます故に相殿に事代主神を祭れるなるべし大山積神のことは釋日本記に伊豫國風土記曰乎知郡御島坐神御名大山積神一名和多志大神是神者所願難波宮津宮御宇天皇御世此神自百濟國度來坐而津國御島坐々謂御島者津國御島名也と云るを以て本社に此神ますこと明けし而るを近世の説に専ら事代主命を主と祭る如く云るは本末違へり

神位 陽成天皇元慶八年十二月二十一日丁未授攝津國正六位上三島神從五位下

祭日 四月九月十一月二十日

社格 郷社

所在 三島江村今屬島(三島郡三箇牧村大字三島江)

今按注進狀に島上郡三島江村赤大路村兩村に鳴神社ありて何れ式社とも決めがたし式に島下郡とあれど今本郡に鳴神社大山祇神社に由緒ある古社なく件の兩村は島下郡接近の地なれば往古は島下郡ならんと云りさて郡界は注進狀に云る如く接近の地なれば沿革ありしものとみゆの神社の所在は攝陽群談また攝津志に三島江村としたると社號に三島と負ひ村名を三島江と云るを據として本村と決

伊射奈岐神社二座